

なめがた大使 小林光恵さん 書きおろしエッセイ

五感でキャッチ！なめがた漫遊記 第2回

絵葉書にするなら：

スマホでの撮影・保存が主流になる前、写真といえば撮影したフィルムを写真店などに持ち込み、現像とプリントを依頼するのが一般的で、たいがい写したものを全部プリントしてもらったものだ。

そのこともあるだろう。捨てるのが苦手な母は、大量の写真を残した。

大きくて重いタイプのアルバム（それが何個も！）に、年月や出来事メモと共に貼ってある。それらを私の家で保管するにあたり、先日、整理作業（今どきのコンパクトなファイルに移す）に取り掛かった。同じような写真、撮り損じたような写真は思い切って大幅に処分しよう、と心に決めて。

しかし、整理が終わってみれば結局、一枚も捨てていなかったのだ。どうでもよいような写真も、いや、だからこそ撮った時の気持ちや状況をあれこれ想像できて大切に思えてきたから。

私は、小学5、6年生の頃、自分宛てに何回か絵葉書を送ったのだった。官製ハガキにちょっとした絵を描いて、それが届くとわくわくしてへあら、どこのどなたからかしらんゝなんて独りごちて、それからしばしば眺めた。

この、自分に絵葉書を送る遊びを、久しぶりにやってみたくなった。送る絵葉書は、母が「平成十一年二月二十八日 婦人会 ドーム見物 ラン展」と題した何枚もの中の、ランではない花を接写して失敗した感じの一枚で作成したい。間近で写したくなった理由をあれこれ考えるのがたのしい。もしかして香りに感動したのかも。フィルムが余って適当に撮っただけ？

ところで、行方市で新しく絵葉書売り出すなら「水と緑」（昔の茨城団体のキャッチコピーにちなんで）をテーマに選んだ写真を五枚セットなどどうだろう。行方産野菜をボタニカルアートタッチで描いたものなどいいかも。企画せよなんて、誰にも言われてないのだけど。

小林 光恵さん



「じゃーば」って行方市の何割くらいの方が意味をご存じでしょうね

行方市出身。つくば市の洞峰公園そばに在住。武田百合子さん（大ファンです）の作品に『絵葉書のように』（中公文庫）という随筆集があります。

市公式ホームページ内で「行方帰省メン」連載中。

サイトはこちらから▶



地域おこし協力隊

連載コラム②

【新規就農に向けて】

行方市地域おこし協力隊に着任して早いもので、もう8カ月になります。今まで農業経験もなく、決して若くもない年齢からの挑戦には若干の不安もありましたが、行方市の皆さまの温かい人柄と霞ヶ浦・北浦の二湖の景観優美な景色が、その不安を吹き飛ばしてくれました。

行方市の名産品であるサツマイモをはじめ、レンコン、キュウリなど栽培品目と農家さまを変えながら研修を行ってきました。研修を一通り経験させていただいた結果、イチゴ農家を目指す決意をいたしました。研修でお世話になった農家さまでいただいたイチゴは、今まで食べてきたものとは比べ物にならないくらい甘くて、衝撃を受けたのが大きな理由です。また、農地確保や10アールあたりの収量の高さ、加工品の販売など将来的な展望も含めて、魅力ある品目だと感じています。

これから本格的な研修に入りますので、退任後に独り立ちできるよう、技

術や知識を磨いていきたいと思っています。行方市の皆さま、引き続きよろしくお願いたします。

（次号は、田沼絢子が担当します。）



▲佐藤 品 隊員

【令和5年11月1日～現職】
新規就農を目指し農業に従事するほか、市の農業を盛り上げるためのPR活動等を行う。マルシェ等の企画提案も実施予定。

